

# 市民が安心して暮らせる 「災害のない安全なまち」 「災害に強いまち」を目指して



大阪市消防局長 藤井 茂樹

大阪は、古くは飛鳥時代から港町として栄え、一時は難波京として都が置かれたこともありました。その後も、豊臣秀吉が天下統一の拠点として大坂城を築城し、江戸期には文楽や上方歌舞伎といった上方文化が隆盛を見せるなど、様々な歴史や文化が育まれました。また、「水の回廊」に代表される豊富な河川による水運を原動力に、人々は「水の都」大阪の物流、商業を大いに発展させ、近世には「天下の台所」として日本経済の中心的役割を果たしてきました。

今なお多くの企業が事業所を構え、キタとミナミの二つの大繁華街を有する大阪市は、市外からも多数の通勤・通学者や観光客が訪れる西日本の行政、経済、文化、交通の中心都市として発展しています。

さて、大阪市では、アジア消防長協会総会の46年ぶり2回目となる当市開催に伴い、去る6月8日から11日までの4日間、同会のほか「第68回全国消防長会総会」や「大阪国際消防防災展」「消防防災・国際救助隊合同訓練」などの消防・防災関連の会議やイベントを同時に行う、総称「IFCAA 2016 OSAKA」を南港地区にて開催いたしました。

IFCAA 2016 OSAKAは、「未来へ繋げるアジアの消防」を開催テーマとして、「第29回アジア消防長協会総会」では日本を含む17の国や地域から一堂に会した約1,000名の消防関係者による活発な意見交換が行われたほか、「大阪国際消防防災展」「消防ふれあいフェスティバル」といった催しでは延べ5万人を超える方々に御来場いただくなど、大いに盛り上がりを見せて成功裏に閉幕することができました。

御参会いただいた国内外の消防関係者の皆様を始め、格段の御支援・御協力を賜りました各種企業・団体の皆様、その他御来場いただきました皆様には、この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

大阪市消防局では、約270万の市民が安心して暮らせる「災害のない安全なまち」「災害に強いまち」を目指し、「住宅火災の発生件数の低減及び被害の軽減」「事業所の防火・防災管理の徹底」「救命の連鎖の強化による救命率の向上」「防火・防災に関する知識・技術の普及」といった4つを重点的に取り組む経営課題として掲げ、「PDCAサイクルの徹底」を念頭に消防行政を強力に推進しています。

消防を取り巻く状況は日々変化していますが、「いかなる災害からも市民を守る」という消防の使命は不変であり、当局ではこれまでも「力強い消防」であることを組織方針として掲げてきました。「力強い消防」であることは勿論のことですが、多様に変化を遂げる今の時代においては、未知の災害にも柔軟に対応できる「人」そして「組織」でありたいと考えています。また、災害に限らず、事務事業運営の中でも幾多の困難を受け止め、それを乗り越えていける「しなやかさ」、市民と接する様々な場面で親切、丁寧、柔軟に対応できる「しなやかさ」を毎日の業務の中で意識し、実践することが重要であると考え、今年4月の局長就任以降、様々な機会を通じて職員に伝えてまいりました。

今後も、地域住民、事業所及び関係団体と連携を図りつつ、全職員が一丸となって日々の業務に邁進し、市民が安心して暮らせる災害に強く安全で安心なまちづくりを進めてまいります。